

小山小、おおたかの森小 2校で108学級!? 学校も学童保育も「収容所」ではありません

子どもの発育を守り、学ぶ権利を保障する市政を



提案

- 新設校は「1校」に限定しない
 - 『義務』教育施設の整備は最優先に

人口増を背景に、法令にある小中学校適正規模（12～18学級）の3～4倍の小学校が市内に6校も誕生。小山小・おおたかの森小学校の2校で6年後、108学級、3,457人を想定しています。30学級を超える中学校も複数うまれる方向。これに伴い、48学級を超える場合は、教職員や保護者の願いで実現した少人数学級をやめる方針です。

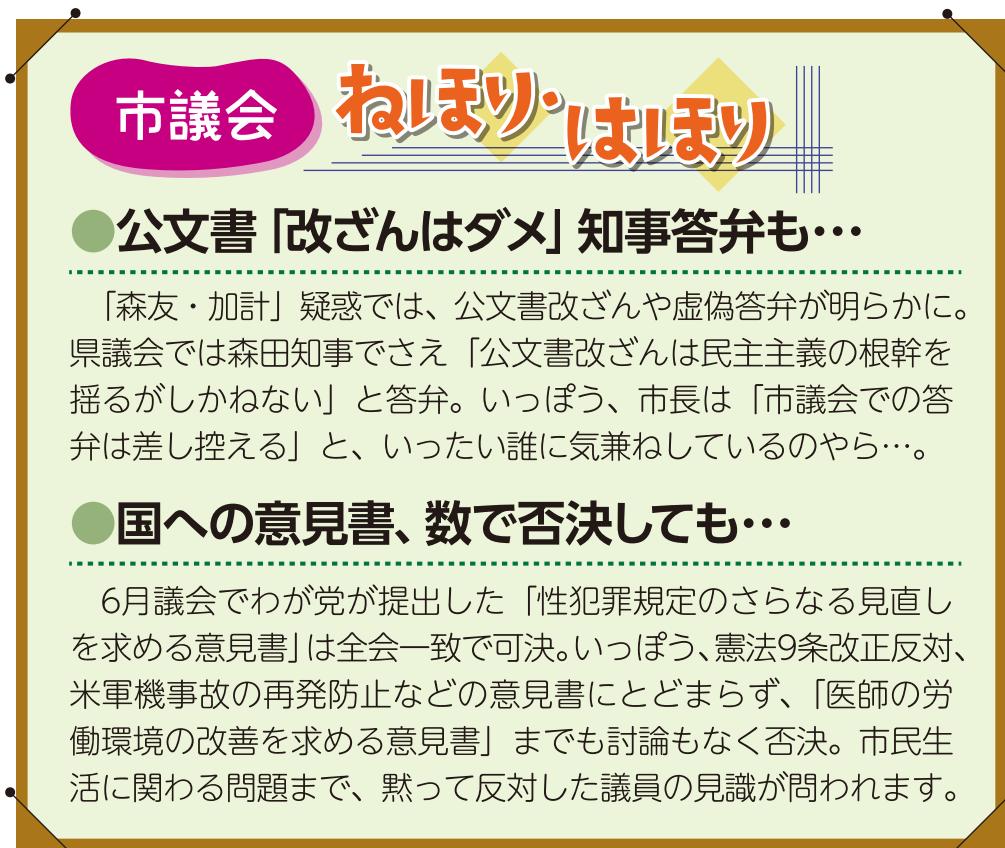
わが党は、議会で課題を指摘し、改善を迫るとともに、保護者や教職員、学童支援員、自治会役員と懇談を重ね、7月1日、流山市の過大規模校を考える会主催のシンポジウム開催に協力しました。

子どもの発育を守り、『義務教育』の権利を侵害するような姿勢は、市民の力で変えさせましょう。

老朽校舎、一目も早い対策を

H27年度、校舎114棟の簡易劣化診断を実施。
劣化のひどかった25棟を詳細診断しました。

わが党の質問に「25棟中13棟が改修、12棟は建て替えが必要」と答弁がありました。一日も早い改修・建て替えの着手が欠かせません。



身近な要求実現

